

当社社長の「2007年 新年挨拶」について

本1月4日、当社社長の松下功夫は、2007年を迎えるにあたり、社員に対して新年の挨拶を行いました。要旨は次のとおりです。

1. 昨年、世界経済は堅調裡に推移し、国内においても、戦後最長となる景気拡大を達成した。
一方、国内の石油産業においては、石油製品の需要が対前年減少となるなど難しい状況を余儀なくされた。本年も需要減少は続く見通しであり、厳しい競争環境が継続するものと判断せざるを得ない。
2. こうした状況下、当社は、「一面成長戦略、一面徹底効率化」を基本として経営諸施策を推進する。特に本年は次の3つの重点課題に取り組む。
 - (1) CS経営の徹底と浸透
当社は、昨年をCS元年と位置付け、お客様満足を徹底して追求する道を選択した。当社グループ全体に意識変革の胎動が見られるようになったが、本年は、JOMOステーションの提供価値を明確にするなど、CS経営をさらに深掘りしていかなければならない。私自身、「倦まず弛まず、愚直に」を合言葉に一緒になって汗をかいていく。
 - (2) アロマ・プロジェクト(鹿島製油所での石油化学製品生産設備新設計画)の早期立上げ
本プロジェクトは、当社の成長戦略の核となる大型プロジェクトである。無事故・無災害をもって建設工事を9月末に完遂するとともに、来年1月に予定している営業運転開始を一日でも早く実施できるよう全力を挙げて取り組んで欲しい。
 - (3) 業務全般にわたる「経営品質の向上」
昨年の社長就任時に、「活発なコミュニケーション」を図ることを強くお願いした。経営の質を高める要諦は、関係者全員が情報を共有し、その上で衆知を結集することにある。経営品質の一層の向上に向けて、グループ内外の情報を適時的確に把握し、縦横の連携・コミュニケーションを適切に図れる体制を構築したい。
3. 本年の干支は「丁亥」である。丁亥には、“新旧がぶつかりせめぎ合う”という意味がある。本年は、干支に因んで、新たな成長戦略の遂行に向かって旧弊を打破していく年にしたい。

以上